

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 3月 1日

事業所名 かぶと虫Mark

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1		国の設置基準より、指導訓練室は放課後等デイサービス事業においては、児童一人当たり4㎡となっている。当事業所の指導訓練室は、48.76㎡のため、定員10名でも基準を満たしている。
	②	職員の配置数は適切である	3	1	3	国の人員配置基準(営業時間中に常に児童指導員2名)は満たした上で、児童指導員等(保育士)も加配している。直接支援スタッフは、常時4~5名配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			入り口ドアは車いすの方でも通れる間口となっている。車いすの方が利用できるトイレを設置している。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	3	1	記録の確認を出勤時にしてもらい、振り返りと対応を全職員が意識して行えるようにしている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		評価表を参考に業務改善に努めていく。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		ホームページ等で公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3	1	現時点において、第三者評価については行っていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			月に1度、全職員で研修を行っている。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	2		定期的なアセスメントを実施している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	4	1	子ども一人一人に合わせてツールを使い、理解しやすい方法を探りながら支援をしているので、継続して行っていく。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	4		療育についての計画は常に日々行っており、全員で活動プログラムを考えて取り組んでいる。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	2		療育についての計画は常に日々行っており、全員で活動プログラムを考えて取り組んでいる。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	3	3	明確な課題を策定し、職員間で共有をして取り組んでいきたい。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		2	個別活動と集団活動が偏らないように計画している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	3	3	1	全員での打ち合わせが出来ないときは、書面で役割分担や細かな部分の共有を行っている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			業務終了後に職員間での振り返りを実施している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2	1	児童個別での活動記録を記録している。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	6	1		モニタリングを行い、6か月にならない段階での個別 支援計画の見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	4	3		
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	2	3	2	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	6	1		学校とはなるべく密な連絡を心がけている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		4	3	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	3	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	2	3	2	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている		5	2	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 害のない子どもと活動する機会がある	2	5		
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	3	3	1	羽村市の連絡会、東京都の放課後連絡会へ加盟し 参加をしている。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理 解を持っている	4	3		保護者とは密な連携を図ることが出来るよう、日々情 報共有をしていきたい。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	2	2	3	アセスメント等の内容から必要性があれば電話等(新 型コロナウイルスの影響の為)で対応していきたい。
関係機関や保護者との連携	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	4	3		契約時に説明している。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	4	3		相談があれば丁寧に行っている。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を支 援している	1	3	3	今後、新型コロナウイルスの影響も考え、ZOOM等 を用いてのオンラインでの保護者会を検討していく必要が ある。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	2	1	苦情を頂いた際は、管理者より丁寧な対応を行っている。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1		月に1度会報を発行し、日々の療育内容についてや、イベントのお知らせを発信している。
	③⑤	個人情報に十分注意している	6	1		個人情報については事前に同意を頂く等の対応をしている。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1		
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	3		地域の方々に向けたイベントを実施した。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	3		必要に応じて再度保護者の皆様への周知を行う。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			定期的に(年に2回)避難訓練を実施している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			虐待防止研修を少なくとも年に1度は開催をしている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			身体拘束の書類を作成し危険を最小限に留めるようにしている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	5		
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		ヒヤリハットの内容については職員間で共有をしている。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。